

悠久

第 63 号 March 2024

本号の内容

- | | |
|--|---|
| ① 4 年 振 り の 上 海 訪 問 | 岡山県日中教育交流協議会 会 長 岡 本 啓 |
| ② オンライン交流継続中の学校を訪ねて
ー初めての上海奉賢区訪問ー | 岡山県立林野高等学校
岡山県日中教育交流協議会 |
| ③ 日本友好都市青少年河南省訪問団として
～岡山後楽館高校生の派遣～ | 岡山市立岡山後楽館高等学校 校 長 矢 吹 玲 子 |
| ④ 令和5年度「日中青少年交流促進団」
洛陽市等への訪問と交流について | 国際協力研究所・岡山(ICOI) 代表理事 竹 島 潤
日中青少年交流促進団 団 長 |



奉賢区都市計画館、博物館にて

岡山県日中教育交流協議会

会 長 岡 本 啓



四年振りの上海訪問

春節明けから元宵節（小正月）の間に、三泊四日の日程で、四年振りに八名の訪問団を組んで上海市を訪ねることができました。メンバーは、英語教育と論語を特色にしている矢掛町の山部英之教育長様、県立林野高等学校の四人の生徒と引率の先生、協議会の二名です。

冬の冷たい雨模様の四日間ではありましたが、オンライン交流を進めてきた上海市奉賢区の思言小学（小学校）、致远高級中学（高等学校）、惠敏学校（特別支援学校）の三校と市・区政府等を訪問し、心のこもった大歓迎を受け、今後の交流の継続・発展につながるお話ができました。また、奉賢区の都市計画展示施設、美術館の視察、外灘、南京路、田子坊、そして灯籠祭りの豫園・豫園商城を楽しむことができました。さらに、昭和のはじめ、中国と日本の文学者がたちが集うサロンのような場を作った内山完造先生の記念館にもなっている内山書店を訪ね、日本の大学で学んだ若い店長さんから、内山夫妻や魯迅、上海を訪れた日本の文学者たちのお話を伺いました。

今年度、感染症対策の緩和、訪問交流の再開が期待されましたが、なお、ビザ取得などの制約があり、本協議会としては、従来のような高校生の相互訪問交流事業は実現できませんでした。しかし、コロナ禍の中で工夫しながら築いてきた人のつながりや多様な交流活動の継続・拡充を図るため、なんとしても現地へ行くことを考え、多少の無理は承知での訪問でした。

美作市や矢掛町の多大なご理解・ご支援をいただき、限られた時間の交流でしたが、とても濃密な充実した時間を過ごすことができました。

今世界中で分断、対立を煽るような言説が飛び交い、不安定な時代を迎えています。こうした中で、青少年招聘事業への県内中高大学生の参加があったり、青少年交流を進める教員グループの訪問交流が行われ、参加した先生方がさらに交流を広げていくとしておられます。どのような時代にあっても、絶えることなく流れる大河のように草の根の青少年交流を促進するため、諸団体と連携しながら、活動を続けていきたいと思っています。

オンライン交流継続中の学校を訪ねて

— 初めての上海奉賢区訪問 —

岡山県立林野高等学校
岡山県日中教育交流協議会



奉賢区博物館

岡山県日中教育交流協議会としてコロナ禍で実際の交流が思うように進まない中、いくつかの学校でオンラインによる交流に活路を見出し、事業を継続してきました。その中の一校が岡山県立林野高等学校です。岡山県北東部美作市に位置し、全校生徒三百人足らずの学校ですが、以前から、全国的にもいち早く生徒一人一人がクロームブックをもって授業に臨む、海外学校との交流など、先進的な教育に取り組んできた学校です。

林野高校では、コロナ禍で実際の交流はできないにも関わらず、上海市致远高級中学との交流に取り組んできました。また、一年次に希望者は、選択授業で中国語を学習しており、中国との交流には、条件が整っていたといえます。

令和五年度は、協議会としても、何



致远高級中学

とか実際の交流を実施したいと考えていましたが、ビザの取得や航空運賃の高騰等もあり、実施に至りませんでした。しかし、年度末が近い時期ではありましたが、二月には可能性が見えてきました。そこで、以前からオンライン交流を継続していた林野高等学校に協力をお願いしました。上海からも是非訪問してほしいとの招聘も頂けることになりました。これについては、岡山市日中友好協会の松井専務理事のお骨折りが大きく、紙面を借りて感謝する次第です。さらに、今回の訪問については、訪問費用以外にもビザ取得費用、取得のための旅費等が別途必要となり、参加者の負担が大きいのではと心配していましたが、林野高校の所在地である美作市から市長のご理解もあり、一部経費を負担していただくことができました。上海側の学校も春節明けの（日本でいえば、冬休み明け）直

後のあわただしい時期に受け入れていただき、関係者皆様のご支援に感謝の念に耐えません。

こうした多くの方々のご理解や協力のもと、林野高校では、一年生時に中国語を選択した生徒の内希望者四人と引率の教諭一人が訪問することとなりました。

四年間の空白の後、上海を実際に訪問できたこと、温かい歓迎を受けたこと、何より高校生が現実の中国を経験できたこと、四日間ではありますが、有意義な日々でした。来年こそは、少しでも多くの生徒たちが、訪中できるように事業を継続したいと考えています。

改めて、ご協力いただいた岡山市日中友好協会、美作市にお礼申し上げます。
(岡山県日中教育交流協議会大川)

生徒感想

上海に行ったことで、多くの発見がありました。上海では優しい人が多かったです。また、話す声が大きいのに驚きましたが、それは自己主張の一つでしっかりと相手に伝えるためであるということも知りました。ネットやニュースの情報を鵜呑みにしていたこともありましたが、実際に自分が見て感じないとわからないことが多いことに気がつくことができました。

(二年 中塚 悠子)

上海に行き、二つのことが強く印象に残りました。一つ目は、学校訪問の際、一人ひとりの特技や個性を見つけ伸ばしていくことに力を入れていたこと、大学の研究のような深い探究を生徒たちが行っていたことです。将来、教育方面に進みたいと考えている私にとって、実際に見ることで新しい発見につながり、今後に活かせそうだと思いました。二つ目は、私が中国へ行く前に持っていたイメージとのギャップです。実際に上海を歩いたり、現地の人に聞いたり、博物館に行ったことで、国の発展が積極的に進められていることなどを知ることができました。

(二年 赤堀 心春)

上海では多くのことを学ぶことができました。中国は人が多くてにぎやかな印象がありましたが、実際は、人も穏やかで街も緑が多く、道も整備されていてとても良い街だと感じました。更に日本では考えられないほど電子マネーや電子決済が進んでおり、現金という概念が中国ではほとんどなくなってきたように思います。実際に行ってみると、訪問する前に思っていた中国とは違ったので、自分の目で見るのが大切だと思いました。

(二年 川内 夏葉)

上海の訪問で印象に残ったのは、現

地のほとんどの人が笑顔で接してくれたこと、環境に気を使っていることです。言葉が通じなくても、私が伝えようとしていることを読み取るうとしてくれて嬉しかったです。また、バイクの走行音がびつくりするほど静かでした。上海は人口が多いため、早朝から夜遅くまで道が混んでおり、バイクの走行音が住民の睡眠の妨げにならないようにするためだと聞いて納得しました。現地に行ったことで、様々な視点でものを見ることができたので良かったです。

(二年 田中 華桜)

【上海紀行文】

令和六年二月十九日(月)～二十三日(木)で、生徒四名と中国上海を訪問しました。上海市奉賢区致遠高級中学とはオンライン交流をしており、実際の訪問に胸が高鳴るばかりでした。

到着後の夕食は四川料理でした。「辛い！」と言いながら生徒と食べました。

二日目の午前中は、奉賢区の都市計画館と博物館を見学しました。計画館には模型や映像での地域の説明に加え、アトラクションで今後完成する都市を体験しました。博物館では、〈紙〉をテーマにした様々なアートを見ました。龍や蝶の模型などの展示や、奉賢区の歴史を学ぶこともできました。人



思言小学論語学習を児童と

民政府・教育局の方々との昼食では、日本語も話せる方が多くおられて会話も弾みました。

午後は奉賢区の学校三校を訪問しました。思言小学では、児童が祝いを示す赤色のマフラーを手渡してくれました。論語を読む授業では児童が読み方を教えてくれました。恵敏学校は、生徒の主体性を大切にしており、支援学校として潜在能力や可能性を伸ばす教育が行われていました。クラブ活動では、パラリンピック競技に取り組んでいる生徒もいて、学校の設備も充実していました。致遠高級中学では、生徒から「自分たちの学校生活とは多くの点で異なっていた。専門科目や部活動といったも大学で研究をしているかのような内容のものや、レベルの高いオリジナル作品を見せてもらい、同世代にもかかわらず圧倒された。」「春節明けで普段の学校生活は見学でできなかった。



内山書店(内山記念局)訪問

(教諭 伊達 愛美)

たけど、私たちを温かく歓迎してくださり、代表の生徒さんと交流することができてよかった。」といった声が聞かれました。

三日目の市内散策では、ヨーロッパのような街並みが残っていました。上海市人民対外友好協会との昼食会は、とても和やかな雰囲気です。最後に記念写真を撮りました。午後は、一九二七魯迅与内山記念局に行き、日中文化交流に尽力した内山完造氏が作った書店を訪問しました。さらに有名な観光地、豫園と南京路も散策しました。

今回の上海訪問では、中国の学校から大変温かい歓迎をしていただきました。これからも、本校と致遠高級中学の生徒同士との繋がりを深め、お互いに学び合いができる交流を続けていきたいと思っています。

日本友好都市 青少年河南省訪問団として

～岡山後楽館高校生の派遣～

岡山市立岡山後楽館高等学校

校長 矢吹 玲子



河南省実験高校訪問

一九七二年、日中共同声明が出され、中国との国交が正常化しました。日中戦争の開始から三十五年の年月が経つてのことでした。その六年後の一九七八年、「日中平和友好条約」が結ばれました。これにより日本と中国は将来に渡って平和友好関係を発展させること、両国の経済・文化的交流のために一層努力することを約束したのです。

二〇二三年が、日中平和友好条約締結四十五周年であることを記念し

て、河南省人民対外友好協会が主催する「日本友好都市青少年交流ツアー」が実施されました。この交流に参加するため岡山後楽館高等学校の十名の生徒と同行者として支洪涛氏（本校中国語講師）が招待され、十一月二十七日から十二月三日まで、代表団として河南省を訪問しました。河南省にある洛陽市と長年深く交流を続けてきた本校の生徒たちにとって、洛陽を含む河南省を訪問し交流する今回の機会は、両地域の若者がこれまで紡いできた友情を確かめ合うとともに、将来に向けて手を取り合って成長していくという期待が込められたものでした。

帰国後には、彼らの交流ツアーでの活動の様子を撮影したダイジェストビデオが、河南省人民対外友好協会から提供されました。本校の全校集会においてこのビデオを上映し、訪問団が見てきたもの、体験したもの、交わってきた中国の人々との友情の絆を、映像を通して伝えることができました。全校の生徒たちはそれぞれの感覚でその感動を受け止めていたようです。

私はこの全校集会で次のように生徒に語りかけました。

「国際交流がなぜ大切なのか、それは私たちが地球という一つの同じ船の乗組員であり、世界各国にいる人々とお互いに深く影響し合いながら生きているということを、直接体験からしっかりと認識する必要があるからだと思います。日々の生活ではほとんど意識することのない、他の国や文化圏の人々と、直接言葉を交わし、握手を交わし、思いやりをもって相互にもてなす。この体験が、将来の皆さんの考え方、生き方をダイナミックなものにしてくれると信じています。」

「同行した支洪涛氏の言葉」

「近年の日中関係は、世界情勢やメディアの一方的な報道の影響を受けて、必ずしも満足のいくものではなかった。特に四年も続いたパンデミックの間は、本校生徒の日中間交流はほとんど停滞していた。このような状況下にもかかわらず、今回の中国訪問の募集に対して、生徒たちから積極的な反応があったことには内心ほっとした。

河南省での交流では、現地の高校生たちが簡単でぎこちない日本語を



少林寺見学

私たちのために一生懸命話そうとしてくれ、彼らの視線や表情から誠意ある友好的な態度が感じられた。数日間の見学と交流を経て、本校の生徒たちは現地の高校生とすっかり友達になった。帰国前の送別会では、双方の生徒が同じステージで歌い踊り、和気藹々とした雰囲気包まれた。寄せ書きをした横断幕に「日中友好」と書いた生徒もいた。このような光景を見て、私自身も両国の若者が顔を合わせて交流することの大切さ、両国民の友好関係の可能性を深く感じた。

今回の訪問に際して河南省側の周到な手配と温かい歓迎に感謝したい。特に訪問中、数名の生徒がインフルエンザを患ったが、関係部門が付き添いの派遣や病院の手配など、迅速な対応をしてくださった。生徒



洛陽外国語学校訪問（切紙創作体験）

たちは中国の人々の温かいもてなしを感じたに違いない。日中関係の継続的な改善を期待するとともに、両国の青少年が日中友好の後継者になることを願っている。」

【参加生徒の感想（抜粋）】

「音楽遺跡修復現場再現の舞台鑑賞では、昔の中国の人々の暮らしと歴史を、音楽を通して学ぶことができました。うっとりするほど美しい笛の音色、繊細な箏の演奏、中国の国宝と呼ばれる音楽隊の方たちの演奏を鑑賞することができ、本当に貴重な体験をさせてもらいました。」

「「1966年生命科学館見学をして、金魚を196℃で凍らして再び水に戻すという実験をしたのですが、本当に凍らせたあと水に入れると元気に泳いでいてビックリしました。デジタル技術会社見学では最新の技術を見ることができ良い機会になりました。」

「清明上河園では中国の伝統衣服を着て歩いている人がたくさんいました。着ている服がどれもきれいですごく可愛かったです。」

「人生の初めてのカンフーを体験しました。慣れない動きが多くて難しかったです。少林寺は歴史を感じる風格で、仏像もすごく迫力があって、見ていて圧倒されました。」

「文化博物館では、中国の川の周りの地層などを間近で観察できて、おもしろかったです。中でも長江から発見された昔の船は大きくてとてもすごかったです。」

「洛陽城はとても大きく、ライトアップされた姿はとても美しかったです。想像していたより大きく感動しました。」

「龍門石窟は世界遺産なのでとても楽しみにしていました。崖の中に何万もの仏様が彫刻されていて、小さいものもあれば何十メートルにも及ぶ大きい仏像もあり感動しました。」



河南博物館（河南省の生徒とともに）

令和5年度「日中青少年交流促進団」 洛陽市等への訪問と交流について

国際協力研究所・岡山 (ICOI) 代表理事
日中青少年交流促進団 団長

竹島 潤



公式報告会を終えて

(一) NPO ICOIと「日中青少年交流促進団」

NPO 法人国際協力研究所・岡山 (ICOI) は、二〇一〇年十一月に設立、「双方向の国際協力・交流」を目指しています。日本人と海外の方が共に力を合わせて国内外の地域課題解決に取り組めるよう、その礎となる人育てを日本 (岡山) と海外との「草の根国際交流」で推進しています。これまでのサンホセ市 (コスタリカ) やサンノゼ市 (米カリフォルニア州) との海外友好都市プロジェクトを踏まえ、洛陽市 (中国・河南省) とも交流するため、新しく「日中青少年交流促進団」事業

に着手、令和元年度に団長の私を含む理事五名が第一期として、現地訪問・交流し、古都洛陽と現代中国の勢いに魅了されました。帰国後は新型コロナウイルス感染拡大下、オンライン活用による日中青少年交流を促進し、今回は五年ぶりに、若さ&パワーアップを以て「第二期」(六名)を編成し、昨年末十二月二十五日(月)二十九日(金)に洛陽市、上海市、南京市を訪問しました。その概要をお伝えします。

(二) 洛陽再訪&東昇第二中初訪問!

今回のメインは、岡山市立操南中学校と洛陽市東昇第二中学の学校間交流をさらに推進することでした。現在まで、一年目に学年リーダー、学年全体、生徒会執行部などの単位でオンライン交流を、二年目には教育交流締結一周年記念メッセージ交換を行いました。今回は教職員の対面交流(再会)を実現し、操南中学校の特色でもあるSDGs推進活動として、「防災・減災教育」について現地で授業をさせていただきました。授業内容は、地域や企業・民間団体など多様な関係者と連携・協働で進める防災学習プログラムについてでした。会場の孔子堂には約百名の生徒さんが集まり、驚きと称賛をいただきました。質疑応答では、日



東昇第二中にて授業

本(岡山)の中学生の日常や食事など、幅広い質問が出され、会場は笑顔と温かい雰囲気になりました。授業後には、生徒の皆さんが当団員にサインを頼み、「是非、洛陽に来て!」「岡山にどうやったら行けますか?」など大興奮でした。その後の先生方との昼食交流会では、「乾杯!」が重ねられるごとに、両校交流の継続と発展への思いを熱くできました。その後、世界遺産「龍門石窟」への再訪は、同地に精通される徐さんのガイドで再学習できました。夕方となり、寒風の中で対岸から見える石窟の灯はとても美しく、心に温もりを感じました。前回訪問でお世話になった于さんとも再会でき、「日中青少年交流」の約束を果たせたことに喜びも一入でした。

(三) 南京での平和と歴史研修!

日中平和友好条約締結四十五周年に係り、日中間の歴史を「平和」の視点で見つめるため、「侵華日軍南京大屠殺遇难同胞紀念館」(南京大屠殺紀念館)を初訪問しました。鎮魂と記憶を象徴するモニュメントが数多くあり、深い静けさの中、戦争加害の立場である日本人として、入館前には大きな緊張感がありました。ガイドの芦さん、曹さんから「十二月十三日国家追悼式典に日本政府関係者の参列はなかった」と聞きました。「両国首脳が確認する「新たな時代にあった、安定的な日中関係」「互いにアジアと世界の平和と繁栄のために貢献」を実現するには、それぞれが歴史と現実とに直視することが不可欠であると感じました。二〇一五年「ユネスコ世界記憶遺産」に正式登録されている博物館として、その展示内容は怨恨や感情的というよりも、証言と客観的事実



中華門にて



上海総領事館にて赤松大使と懇談

を基に過去から学ぼうとする姿勢が感じられるものでした。その後、夕暮れの南京市街で中華門のプロジェクトシンマッピングを拝見、迫力満点で歴史と現代が交錯する町に魅力を感じました。

(四) 上海の日本語(外国語)教育!

上海では「甘泉」「閔行区田園」二校の外国語中学校を訪問、日本語(外国語)教育を見学しました。両校とも様々な海外諸国との交流に積極的であり、通訳・翻訳センター、日本文化体験施設、少人数日本語クラス、日本語での校内案内、日本語デジタルアニメ制作、日本の歌や踊り…その習熟度と質の高さに感銘を受けました。ガイドの張さんから

「上海は街中でも日本語話せる人が多いんですよ」とお聞きした時、岡山(上海間の直行便、日中友好の礎を築かれた岡崎嘉平太氏(岡山)と郭沫若氏(上海)のご両名のことか思い浮かびました。

(五) 「一滴の波紋」を大切に

当団は、このような体験を個人レベルで終わらせず、「一滴の波紋」として日中友好・青少年交流に繋げていくことを重視しています。そこで、団員は帰国後早速、還流活動に取り組んでいます。二月二十八日(水)岡山県玉野市立荘内中(上海市立田園外国語中で「第一回オンライン交流授業」、三月二日(土)関係者・市民対象「公式報告会」、三



田園外国語中にて



甘泉外国語中学校にて

月十八日(月)岡山市立操南中(洛陽市立東昇第二中でオンライン学年交流授業(予定)などです。当団では、今回のような体験を個人レベルで終わらせず、「一滴の波紋」として日中友好・青少年交流に繋げていきたいと考えています。これまで「雨の日」も「風の強い日」も常に日中両国間の友情を大切にしてこられた、岡山県日中教育交流協議会様、岡山市日中友好協会様をはじめ関係者皆様のご尽力に敬意を表するとともに、NPO ICOI「日中青少年交流促進団」がそれを継承、発展できるよう今後も活動が続けたいと考えております。ともに手を取り合っていきましょう。謝辞。



bene(よく)+ esse(生きる)
Benesse=「よく生きる」



株式会社ベネッセホールディングス
〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
<https://www.benesse-hd.co.jp/>

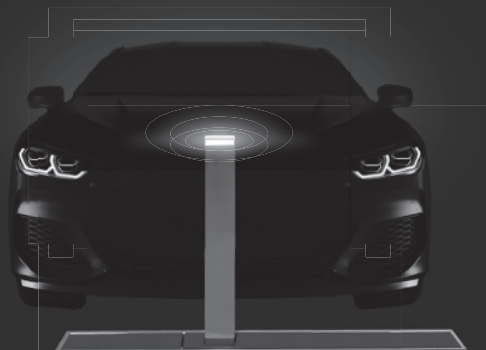
学校法人 加計学園

岡山理科大学附属高等学校 通信制課程

海外に居ながら日本の高等学校を卒業。
日本の大学で学び、世界で活躍する人になる。



〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
Phone : 086-256-8562 / Fax : 086-256-8563
Web : <https://www.r2hs.jp>
Mail : otoiawase@r2hs.jp



愛車を盗難から守る

i!lock
アイシャロック

英田エンジニアリング



岡山県日中教育交流協議会とは、

- 1 学校、団体、個人を会員とする民間団体です。
- 2 会費は、年会費（4月～翌年3月）です。
団体（教育委員会・学校園）・・・3,000円、個人・・・2,000円
- 3 主な活動内容は、
 - (1) 中国との教育交流（リモート交流での技術面のサポートも含みます。）
 - (2) 交流校の紹介、講師の派遣、各種資料の提供、教育事情調査団派遣等
 - (3) 会報「悠久」の発行（県内小中学校、高等学校、教育委員会へ無料配布）
 - (4) 日中青少年交流事業－STUDENT EXCHANGE 事業－
 - (5) 交流活動発表会開催や教育交流実態調査等

岡山県教育交流協議会は、会費と助成金、補助金で活動しています。この機会に、是非ご入会ください。

岡山県日中教育交流協議会 会報『悠久』第63号

発行：令和6年3月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会
〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083 / FAX (086) 225-5041